

**** カルガモ・ヒナ物語 (その8 猛禽類の脅威・ツグミ) ****

1) 「新版・呑川は流れる」について

せっかくですので、この機会に「呑川の会」が取り組んでいる課題について報告をさせていただきます。

「呑川の会」では、当面の最大の課題として「新版・呑川は流れる」の発行準備をしています。前回の2004年版から、すでに12年以上経ち、その間の研究成果を含め、これ1冊あれば、呑川のほとんどのことが判る「教科書」的な、「呑川読本」とでもいべきものを発行したいと思っています。

会員の多くが原稿を出し合うのですが、いよいよ、その「下原稿」を揃える段階に来ています。

私も「生きもの」や「呑川現代史」の部分の準備作業を行っていますが、思いのほか時間が掛かり、「呑川レポート」発行に余裕がありませんでした。

特に「教科書的」というのは大変で、孫の教科書を見ると、初めてそのことを学ぶ誰もが判りやすく書かれ、算数でも理科でも「事例」も豊富で、「これなら誰でも判る・・・」と、実によく出来ているのを感じました。

とりわけ現代の教科書は、判りやすいだけでなく、そのことに興味や関心を抱くように書かれています。「呑川読本」も、これを読む人が、呑川の多くの事に「これは面白い、もっと知りたい」と関心を持つキッカケになればと身を引き締めています。

2) ボラの判別

たとえば、私が書いている「呑川の魚」についてですが、多くの人は呑川を眺めて「魚」を発見しても、その種類まで判別するのは難しいと思います。河床まで5m以上もあり、図鑑と比べて判るような姿を認識出来ないからです。

そこで「ときどきピカッと光ったり、ジャンプをする様子が見られれば、それはボラである」と説明します。しかし、実際にそれを見たことが無い方には、実感が湧きません。そこで、その状況を撮影する事にしました。



水が濁ったり、曇りで水面が暗くて、魚がまったく居ないように見える時でも、ボラは時々体をよじるので、お腹がピカッと光るのです。



ここは、西蒲田地域で、いかにも濁った水の色をしています、ボラが水面から大きくジャンプしています。多摩川などでは、大きなボラが、これまた大きなジャボンという音を立ててビックリさせられますが、呑川でもとても良くジャンプを見せて

くれます。

こういう様子を見て「ボクも、呑川で見てみたいっ！」と気持ちを動かしてくれれば・・・と思うのです。

言葉で「ボラは光ったり、ジャンプしたり・・・」と、1行、2行で書くのは簡単です。

でも見る人が見れば「アッ、手を抜いているな・・・」「心を込めていないで、やっつけ仕事でこなしているな・・・」と判ってしまいます。

アルバイトです仕事と違って、損得勘定の無い市民団体の発行する冊子として恥ずかしくないものを作りたいと思っています。

実は、「呑川レポート」がなかなか発行出来なかった最大の理由に、「呑川読本」に載せるこういう写真を撮るために、多くの時間が必要だったのです。

私の家は目黒区の緑が丘駅近くで、大田区が一番端っこにあり、撮影の中心は「蒲田」や「池上」地域なので、なかなか通いきれないのです。しかも、行っても、「今日はボラが居ない・・・」等というのはザラで、とにかく撮影に成功するまで、回数を稼ぐしか無いのですが、なかなか良い写真が撮れないと、原稿も進まず、疲れも溜まってイライラし、まして「呑川レポート」の発行に気持ちが行きませんでした。

3) 「魚の大量死」と「水質」

「魚」の項目で、呑川にいる魚の種類を並べるだけでは、それは単なる「生きもの辞典」に近くなってしまいます。

生きものにとって「呑川環境」は、良いのか悪いのか、どんな問題点があるのか判りません。

それでは、わざわざ「呑川読本」を求める意味が無いでしょう。

読む方は「少しでも、呑川のことを深く知りたい」と思っているからです。

「魚の大量死」が起こるほどの「西蒲田地域」とは、どんな様子なのでしょう。



水面が「黄濁」や「白濁」するほど、信じられない汚れを写真で見れば、「これはひどい！」と納得し、「魚の大量死」が起きる背景も理解するでしょう。

でも、西蒲田に行けば、いつもこんなに水が濁っている訳ではありません。水がキレイな時もあるのです。

やはり「きれい」な時の様子も示さなければなりません。この撮影は、本当に苦労しました。

「きれいさ」を写真でどう表現するかがとても難しいのです。

やっと撮れた写真は・・・



西蒲田でも水がキレイな時は、両護岸の下部の「犬走り」が

ハッキリ見えるのです。先ほどの「黄濁」した水面との違いがハッキリ判ると思います。

この写真には、右上に「JR 京浜東北線」が小さく写っています。先の「黄濁写真」には、「日本工学院」の校舎が写っています。ここが「西蒲田」地域であることが判るように、どこかにシンボリックな背景を写し込むことも気を遣うことの一つです。

西蒲田地域が、私の家から遠いだけで無く、行っても「今日は濁っている・・・」「きれいなようでも、犬走りが見えるほどで無い・・・」などと「空振り」のほうが多く、自転車を飛ばしてきた徒労感は大きく、断念しようと思ったことはシバシバでした。

疲れてくると、蒲田地域や池上に住む会員の方に「こういう写真が欲しい」とお願いをしたくなります。やはり地元で、5分もあれば呑川の様子を見に行け、「今日はボラがピョンピョン跳ねている」「今日は水が濁ってる」などがすぐ判り、目的の状況が見られ無くても「徒労感」を感じず、時間をおいてまたすぐに様子を見に行けるのは最高だからです。

ただ、人に頼む前に、「まずは自分で努力をしなければ・・・」と撮影を続ける内に、時間はどんどん経ち、「呑川読本」の原稿は大きく遅れてしまっています。だからと言って、写真はいい加減にたくありません。

4) カメ

呑川に多くのカメの種類がいます。でも、ほとんどの人は「呑川のカメはミシシippアカミミガメ」と決めつけているので、「呑川読本」を機会に、今まで撮影出来ていなかったカメを探し、これも写真に収めています。



これは「イシガメ」です。
夕方の方の暗くなった時間帯に、やっと見つけました。

ただそれぞれのカメの特徴を判っていただく写真は、なかなか撮れません。

「ミシシippアカミミガメ」の写真はたくさん撮っていますが、
「呑川読本」に載せようとする、意外と汚れていて、アカミミの
赤い色が出ていないのが多いのに気が付きました。

これも撮り直しました。



これなら「アカミミ」がハッキリ判ります。

ところが原稿を書き進める内に、こういう大きい写真ではページ数がかさみ、もっと小さいサイズにする必要に気が付きました。

ところが・・・



小さいサイズにすると「アカミミ」の特徴が判りにくいのに気が付きました。そんな訳で、それぞれの目的に応じ、あるものは大きな写真、これは小さな写真と、バラバラになるページも出てきました。

こんな風に、一つ一つの写真を撮り直したり、トリミングなど写真の作りを変えたり、良い写真を提供するのに思いのほか時間が掛かっています。

今回のカメの撮影で苦労したのは、池上地域に行けば必ず「カメ」が居るわけで無いことです。

ずらりとたくさん並んでいることもあれば、全くどこにも見当たらないことも多いのに気が付きました。

いったいどこに隠れているのでしょうか・・・？

これも解明したいことのひとつとなりました。

会員の多くの方が、1枚の写真に、1枚の地図に思いを込め、現場を歩き、古文書などの解釈に頭を悩まし、苦労と努力を続けています。少しでも良いものを作りあげたいと思います。

5) カルガモ・ヒナ物語 (その8 猛禽類の脅威・ツミ)

「カルガモ・ヒナ物語」は(その7)まで続き、とりわけヒナがキチンと育つか、ヒナを襲う脅威にはどんなものがあるかを明らかにしてきました。

その中で「カラス」や「カワウ」が遅うシーンなど「呑川」での実態をレポートすると同時に、襲うシーンは見られなくても「猫」なども「呑川」に実際にいることを報告してきました。

ただ、「猛禽類」については、「野鳥公園」で「オオタカ」が「カルガモ」を襲う例を示しただけで、この「呑川」ではどうかについて触れませんでした。

そのことが私の胸の奥に、ずっと気になっていました。

「猛禽類」が「呑川周辺」にいるかどうかを追わないでいるのは「手抜き」のようなうしろめたさがあったのです。



ここは「久が原2丁目ひろば」という公園の前です。
いつもたくさんのドバトがたむろし、呑川のフェンスを汚しています。
私はここで、空高く「チョウゲンボウ」らしき猛禽類を2度ほど見たことがあるのですが、最近は全く目にしていません。

その時は、チョウゲンボウはドバトを狙っているのかな・・・と漠然と
思っていました。



ここは「石川町2丁目第2児童公園」ですが、ここにもたくさんのドバトがよくたむろしています。

ここを通るたびに、ひょっとしたら猛禽類がやって来ないかと気にしていました。

ところが、この場所で急にバサバサと落ち着かない音がしました。なんだろうと見回したら、何かが地面に舞い降りてきたのです。



なんと、ドバトを食べている猛禽類の「ツミ」でした。

これはチャンスと後ずさりでなるべく離れました。そばに居ては、こちらに気が付かれ、逃げられてしまうからです。

「ツミ」は、2年前か、3年前か忘れましたが、「本門寺公園」で多くの人が集まっていたので、初めて見ました。今年になって、「洗足池」で「ツミ」が子育てをしているのも見られました。

その「ツミ」が、なんと石川町の「一本橋」付近で現れたのです。

「猛禽類」の魅力は、その鋭いクチバシとともに、眼光鋭い目であり、なんとか「両目」の鋭い姿を撮影したくなります。



ところが、やはりこちらに気が付かれ、羽根を広げ、獲物を捕まえながら飛んで逃げられてしまいました。しかし、このチャンスを逃がす手はありません。飛んで逃げた方向を探すと・・・



眼光鋭い両目を光らし、獲物を離さない、威厳に満ちた「ツミ」の姿がそこにありました。

もちろん、真っ正面にカメラを構えている私の姿にすぐ気づき、あっという間に逃げられてしまいました。

こうして「呑川」沿いにも「猛禽類」がいる事が発見されました。
カルガモのヒナにとって、「野鳥公園」と同じように
脅威になる可能性があります。
その脅威に注意を払い、安心しないで観察する必要があります。

----- (当面の予定) -----

- ・「呑川の会・定例会」 12/10 (土) 13:30 蒲田小学校会議室
- ・「秋の都市河川ウォーク」(帷子川) 12/11 (日) 相鉄鶴ヶ峰駅改札 10:00 集合
- ・「呑川ネット・定例会」 12/13 (火) 10:00 生活センター
- ・「呑川の会・定例会」 2017/1/12 (木) 13:30 ふれあいはすぬま第2集会室
- ・「久が原図書館・呑川講座」 2017/1/28 (土) 14:00 2/25 まで毎週土曜 5回連続講座

-----photo essay by-----

(呑川の会) 高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com
